

日本初の未来型医療施設となる「小田原モデル」をご提案し、品質・工期・コストのベストソリューションを実現します

「小田原モデル」実現のための3つの柱
新しい市立病院は、災害、感染症の新たな脅威に備え、高齢化2040年問題など、有事平時における社会的使命を継続的に果たすことが求められています。

私たちは広範かつきめ細やかな役割を十分理解し、そのために重要となる

「スマート」「サステナブル」「つながり」を3つの柱に掲げ、当チームの分野を超えた発想力、技術力を結集し、小田原の地域力を最大限に引き出すことで、未来型医療施設の先駆けとなる「小田原モデル」を実現します。

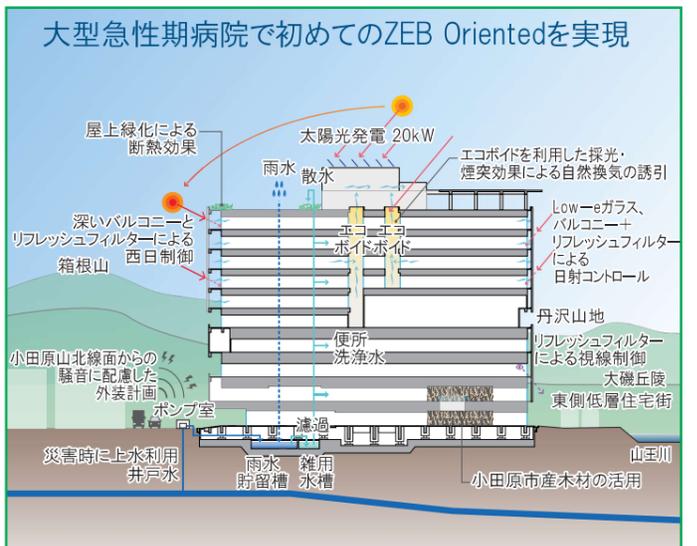
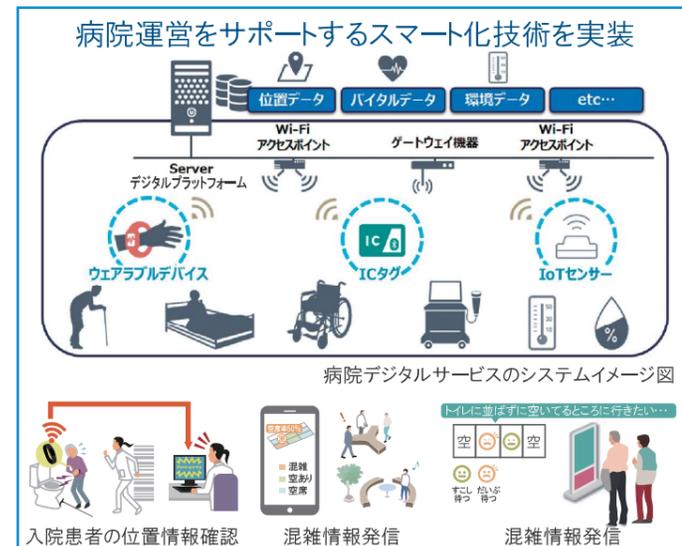


南西側外観パース：メインアプローチからみた未来型医療施設を感じさせる外観デザイン

基本計画における新病院が目指す5つの姿

- 患者に信頼される病院
- 急性期医療を担う病院
- 地域医療連携の強化
- 働く魅力のある病院
- 経営の健全化

<h2>1 スマート</h2> <p>日本一スマート化された未来型医療施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域全体の安心のシンボル、スタッフの誇りと希望を喚起する建築・環境デザイン 設計、建設、運用までのプロセス一貫化を実現するデジタルプラットフォームの構築 救急から健康づくりまで、いち早く最新ICT技術を導入し、迅速・安全・安心な医療環境づくり 物流、省エネ、維持管理など医療支援業務のAI、ロボット化による経営効率化支援
<h2>2 サステナブル</h2> <p>質の高い医療を継続的に提供し続ける環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大規模地震や水害にも災害拠点病院機能を維持継続するワンランク上のBCP性能を確保 新興感染症を想定しニューノーマル時代の先駆けとなる空間ゾーニングや気流制御の提案 「省エネルギー性能の目標値」の設定により低炭素化・省エネと維持管理の容易化を実現 小田原SDGsを推進させる環境共生、地域コミュニティ、創エネなど積極的取組
<h2>3 つながり</h2> <p>地域完結型拠点としての「つながり」と急性期医療機能の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> 速く・広く・多く受け入れる三次救急センターの施設環境整備 がん医療の標準治療強化と先進医療の橋渡しとなる緩やかなセンターづくり 患者サポートセンター機能充実による入退院支援、地域連携のつながりの場づくり 高齢患者にも配慮しベッドサイドケアの充実を図るゾーンユニット型病棟の提案

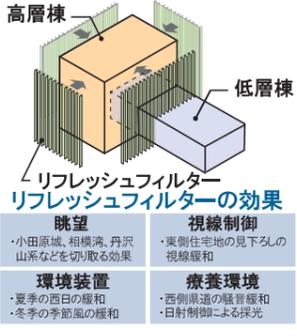




小田原の環境を最適利用する「リフレッシュフィルター」

1 環境・機能・デザインを合わせた機能美

- リフレッシュフィルター（縦ルーバー）をまとうことにより、病院特有の基壇型を脱却した未来型医療施設を印象づけるデザインを構築します。
- ルーバーを設けることで、近隣住民への視線低減や最良の眺望確保、日射制御などを行います。



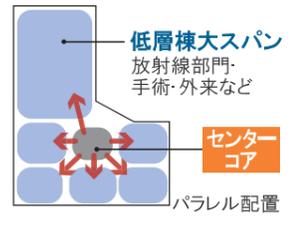
関連部門をワンフロアで連携する「パラレル配置」

1 低層棟大スパンによりフレキシブルな空間確保

- 高層階と直交配置した低層階を超ロングスパン(15.5m)で構成し、広さと自由度が求められる部門(放射線、外来診察、手術)を配置します。

2 センターコアを中心に部門連携を強化させるパラレル配置

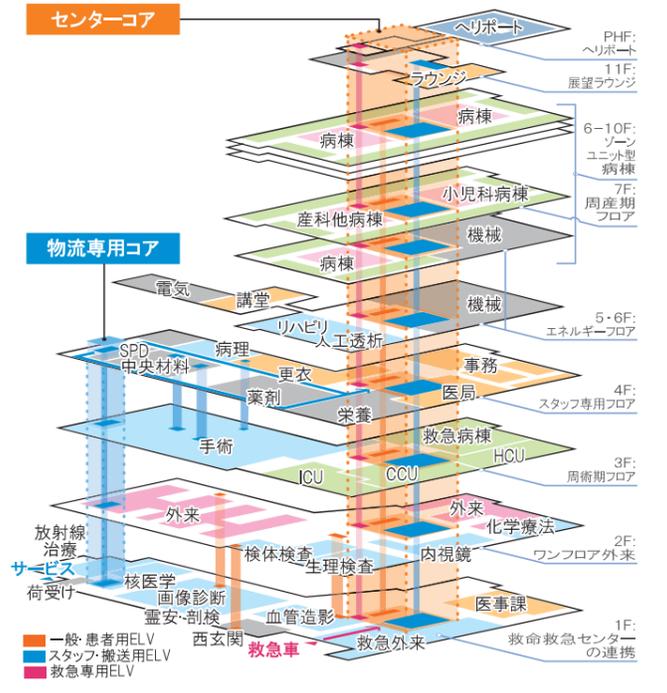
- センターコアを中心に部門を配置することができ、動線の短縮と部門連携強化を図ります。



効率性、迅速性を高めるフロア構成

1 外来、周術期、周産期、管理、物流のワンフロア化を徹底

- 関連部門をワンフロアでまとめることにより効率的で健全な病院経営に寄与するフロア構成とします。



県道への渋滞要因の徹底排除と2つの救急アプローチで迅速性を強化



1 都市環境と新たな病院を融合させたL型配置

- 都市軸を形成するL型配置とし、来院者を内側の大きな車寄せにてスムーズに迎えます。

2 県道に渋滞を引き起こさない5つのアプローチの工夫

- 一般、救急、サービス動線を分離
- 雨に濡れることのない70mの車寄せでバス・タクシーと一般車の乗降を分離
- 約13台の駐車場待機専用レーン
- 330台以上を収容できる、大型一般駐車場
- 駐車券の発券がない、チケットレスゲートの提案

3 救急の迅速性を担保する救急専用入口と広い救急ピロティ

- 県道から直接搬送できる救急専用入口と、サービス・救急アプローチの2カ所でのいかなる事態にも迅速対応できる計画とします。
- 2台同時に寄りつける全天候型の広いピロティを確保し、スムーズに救急患者を受入れます。
- 救急車、ドクターカー待機5台以上のスペースを確保します。

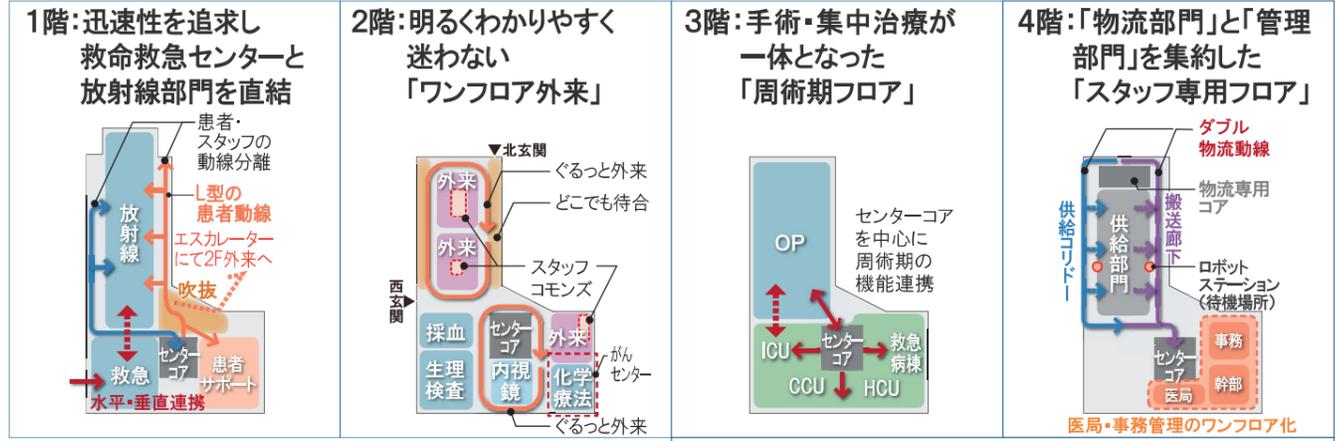
4 ウォークイン救急患者にもわかりやすい動線計画

- 時間外出入口を主玄関に隣接配置し、南玄関と直線的につなげて時間外でも迷わず院内へアクセスできる計画とします。
- 病院内に時間外ストリート直線を広く整備することで、救急患者やお見舞いを迷わずに誘導します。

5 スタッフの移動にも配慮した南玄関

- 南側職員駐車場から最短でアクセスできるルートとして専用入口を設置します。

「動線分離・部門連携・スマート化」により、高度な医療をやさしく・効率的に提供する平面計画(主要階)



病棟階: 動線の分離・短縮により看護効率upとロボット化に対応した、わかりやすい2看護/1フロアの病棟

「ゾーンユニット型病棟」の3つの効果

